

第16回 キリスト教学校教育懇談会 講演会

グローバル社会における キリスト教学校の役割 —多文化共生社会の課題—

入場無料

外国人＝英語という先入観、でも世界の4分の3は非英語圏。日本社会で進む外国人労働者の定住、でも彼らとの交流は乏しい。その中で“多文化共生”を見直す時、グローバル教育の課題が見えてくる。そしてキリスト教学校の役割は…？

2018年 **11**月**17**日(土)13:00～16:45

会場：青山学院大学 9号館 930教室 [東京・渋谷]

基調講演 **高桑光徳**氏 「“縮小時代”を迎えた日本社会における多文化共生とは」

明治学院大学教養教育センター教授。慶應大学、青山学院大学、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）で言語学・応用言語学を学ぶ。2015年度より始まった明治学院大学「内なる国際化」プロジェクトで横浜事務局を務める。

発題 **中村友太郎**氏 「“外国につながる子どもたち”とのふれあいから」

1937年東京生まれ。1966年東京大学大学院比較文学・比較文化博士課程修了。キリスト教学者。上智大学名誉教授。現在、NPO法人足立インターナショナルアカデミー塾長に従事。訳書に B・ヘーリング『価値判断の根底を探る』（中央出版社 1990）、V・E・フランク『生きがい喪失の悩み』（講談社 2014）ほか。

発題 **木村護郎**氏 「これからは英語の時代！……？」

1974年名古屋生まれ。上智大学外国語学部ドイツ語学科教授、大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻教員。専門は言語社会学、言語教育学。主な著書『マイノリティとは何か』（ミネルヴァ書房）、『外国研究の現在と未来』（上智大学出版）、『節英のすすめ』（萬書房）、『多言語主義社会に向けて』（くろしお出版）ほか多数。

主催：キリスト教学校教育同盟
日本カトリック学校連合会

